公益社団法人
愛知県理学療法士会
Aichi Physical Therapy Association

THE AICHI PHYSICAL THERAPY ASSOCIATION

APTA NEWS 223 2026.11

公益社団法人 愛知県理学療法士会ニュース



令和8年 熊本地震の 支援体験記

PT's Report

特集

令和8年熊本地震の支援体験記

令和８年７月に発生した令和８年熊本地震により被災された皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。
熊本地震の支援活動に愛知県理学療法士会会員の方にも協力いただきました。
今回は支援者を代表して加藤芳司先生、青木一樹先生の体験記をご紹介いたします。

避難所で「生活」を支える
－熊本地震におけるJRAT活動を通して－

名古屋葵大学
医療科学部 理学療法学科
加藤 芳司





令和8年7月28日に発生した熊本地震を受け、8月24日から28日まで、愛知JRAT登録隊員として現地支援活動に参加しました。理学療法士・作業療法士で構成されたチームで、熊本JRATの指揮のもと、特に被害の大きかった八代市、氷川町周辺の各避難所を巡回しました。

現地でまず感じたのは、避難所は一時的な滞在場所ではなく、被災された方々にとって、その時点での「生活の場」であるということです。仮設ベッドからの起居、限られた移動範囲、慣れない排泄・睡眠環境などは、時間の経過とともに活動量の低下や体調悪化につながります。私たちは、避難者一人ひとりの健康状態、移動能力、生活上の困りごとを確認し、生活不活発病や廃用症候群、転倒、災害関連死の予防という視点から支援を行いました。

具体的には、避難所内の動線や居住環境を確認し、移動・排泄・睡眠に関する相談への対応、要配慮者への個別支援、身体機能の低下を防ぐための体操や運動指導などを実施しました。しかし、現地で求められるのは、単に運動指導だけではありません。避難された方の思いや生活背景に耳を傾け、無理なく続けられる方法を一緒に考えること、さらに行政、保健・医療・福祉関係者、他の支援チームと情報を共有し、必要な支援につなぐことも、理学療法士の重要な役割でした。

災害時には、避難生活による活動量の低下から身体機能が低下し、それが日常生活の不自由さや、さらなる活動量の低下につながる可能性があります。日頃から対象者の動作と生活環境の両面を捉えている理学療法士は、こうした変化を早期に把握し、身体機能だけでなく避難生活全体を支える役割を担えることを実感しました。

一方で、現地支援は派遣された隊員だけで成立するものではありません。勤務を調整し、送り出してくださった所属先や同僚、家族、そして現地の関係者など、多くの方々の支えがあって初めて可能になります。今回の経験を、今後の災害支援と人材育成に還元するとともに、平時から災害を自分事として捉え、顔の見える連携と備えを積み重ねていきたいと思います。



支援者にも、受援者にも、そして被災者にもなり得る私たち
－熊本での災対支援を通じ感じた視点－

株式会社 gene
青木 一樹



冒頭に記すことではないかもしれませんが、正直なところ今回の支援活動で私がお役に立てたのかは分かりませんが意味はあったと感じています。本来であれば現地の状況をお伝えすべきかもしれませんが、今回は私が感じたことを記させていただきます。

令和８年８月24日から５日間、愛知JRATの一員として私は熊本の被災地に赴きました。現地に向かう道中、頭にあったのは「理学療法士として自分に何ができるのか」という問いや、「支援者として役割を果たさなければ」という思いでした。しかし、現地で様々な状況に触れ、その思い込みは良い意味で打ち砕かれました。

望まない厳しい環境下で懸命に生活を送る方々、自らも被災し支援の受け入れや現場対応に奔走する現地スタッフ、そしてさまざまな地域から派遣された多様な専門職。皆さまと限られた情報や物資の中、試行錯誤するうちに私は錯覚に気づかされました。

私が入ったフェーズでは避難所での環境調整や物品の確認、他職種と連携した生活不活発病予防の巡回・生活状況や避難者数の調査、といったいわゆる間接的な活動と直接的な支援が必要な避難者への評価・助言を主に行いました。限られた情報と物資の中、一日一日と目まぐるしく変化する環境の中で理学療法士として何ができるかを模索し続ける日々でした。

そうした活動の中で、私はどこかで支援と援助を混同していたのではないか、支援を求めざるを得ない受援者側の葛藤を間近で感じ、支援とは手を差し伸べる援助ではなく、相手の主体性や尊厳を尊重し、共に前を向く作業なのだと痛感しました。

支援者・受援者・被災者という立場は固定されたものではありません。明日自分が住む地域で大規模災害が起きれば一瞬で逆転します。支援する側とされる側を分けるのは、たまたまそこにいたかどうかという運命の違いでしかありません。だからこそ平時から支援力だけでなく、正しく助けを求める力(受援力)を育み、お互いを支え合える関係性を地域や日々の活動の中で築くことが重要だと強く実感しました。

そして支援活動とは、単に現地へ足を運ぶことだけを指すのではありません。家族や周囲のサポートをはじめ、不在中の業務を補い背中を押して送り出してくれた職場の仲間があって初めて成り立つものであり、それこそがもう一つの尊い支援のかたちであることに気づかされました。

最後になりますが、関係者の皆さま、現地の皆さま、一緒に活動したチームの皆さま、そして快く現地へ送り出してくれた株式会社geneの仲間に深謝申し上げます。

今なお現地で復興に向け懸命に活動されている皆さま、そして被災されたすべての皆さまにお見舞い申し上げますとともに、被災地の１日も早い復興を祈念いたしまして、本稿の結びとさせていただきます。



TOP MESSAGE

2026.11

副代表理事
メッセージ



副代表理事
池野 倫弘

災害も日々の業務も事前の備え、そして経験を未来へ

令和8年9月8日はこの地域でも記録的な大雨となりました。被害に遭われた皆様にはお見舞い申し上げます。私も自宅までいつもの3倍以上の時間をかけてなんとか帰宅できました。自宅までの移動中、2000年の東海豪雨の記憶が蘇ってきました。当時、名古屋は庄内川流域、天白川流域が決壊し多くの被害が出ました。その際も手を震わせながらハンドルを握り、なんとか実家まで車で帰宅できたことを思い出しました。今回の大雨は1時間雨量では東海豪雨を上回り観測史上最大となりました。地下鉄などが運休して大変な目に遭われた方もたくさんみえると思いますが、川の決壊による被害の拡大には至りませんでした。20年以上の歳月により、過去の教訓からの治水対策などの備えが大きく功を奏しました。当会の事務局職員も直近に9月1日の防災の日に合わせて避難備品の確認等を直近に実施していたこともあり、職員全員が帰宅することができました。今回、本誌では7月28日に発生した熊本地震への支援についても特集しております。皆さんの今後の活動の参考となれば幸いです。

10月まで愛知・名古屋においてアジア競技大会・アジアパラ競技大会が開催されました。ご協力いただきました多くの皆さま、大変ありがとうございました。私も活動現場へお邪魔もさせていただきました。現地メンバーの中には経験が浅く不安をお話される方もみえましたが、いざ対象者への対応となると堂々と実施されており、事前研修等の準備による賜物と大変に頼もしく感じました。

理学療法士のニーズはどんどん広域となっており、これから皆さんも日々の業務の中においてもこれまで経験していないことに携わる機会も多くあるかと思います。様々な事を想定した事前の準備がいかに必要か、そしてこれまでに経験した事をいかに未来に繋げていくか、今回の大雨が改めて振り返る機会となりました。当会の未来についても会員の皆様と一緒に考えていきたいです。

会務記録（副代表理事）

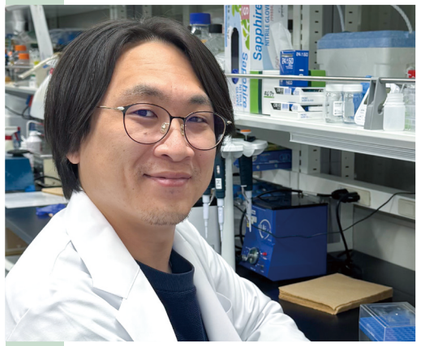
7月 2日㈭ 名古屋市リハネット情報交換会
7月 6日㈪ 日本理学療法士協会全国政策担当者会議傍聴
7月13日㈪ 日本理学療法士協会代議員研修会
7月18日㈯ 理事会
7月19日㈰ 愛知県鍼灸師会面談
7月23日㈭ 愛知県県議･ハローワーク役員との情報交換会
7月27日㈪ あいち障害者スポーツ連絡協議会
8月21日㈮ ハローワーク面談
8月23日㈰ チャレンジドフェア
8月23日㈰ Ptagora
8月29日㈯ 理事懇談会
9月 6日㈰ 2026年度都道府県事務局長会議
9月 6日㈰ 介護予防全体会
9月10日㈭ 自民党政策懇談会
9月19日㈯ 理事会
9月25日㈮ 愛知県庁面談
9月26日㈯ 国際交流研修会視察
9月28日㈪ アジア競技大会視察

エキスパート
Expert PT

VOL.21

松原 崇紀

このコーナーでは、愛知県内で長年理学療法士として活躍されてきた方をご紹介していきます。第21回は松原崇紀先生（藤田医科大学）をご紹介します。



Q1 理学療法士を目指したきっかけは？

小学校から高校までハンドボールを続けていたこともあり、昔から身体を動かすことが好きでした。高校生になり進路を考え始めた頃も、漠然とスポーツや身体に関わる仕事がしたいと思っていました。そんな時、母から理学療法士という職業を教えてもらったことが、目指したきっかけです。

Q2 これまでで特に注力したこと・思い出に残っていることは？

理学療法士として働く中で、何かに夢中になっている時には平気なのに、痛い部位を意識すると急に「痛っ！」となる。同じ人、同じ身体なのに、意識や注意によって痛みの感じ方が変わることに興味を持ったのが、研究を始めるきっかけでした。その「なぜ？」を追いかけて大学院へ進み、現在まで痛みのメカニズムを研究してきました。そして気がつけば、その疑問を追いかけて海を渡り、米国の研究室で研究する機会にも恵まれました。理学療法士として感じたちょっとした疑問から始まり、研究者になり、さらにはアメリカまで行くことになるとは当時は想像もしていませんでした。そして今も、藤田医科大学であの時に感じた最初の「なぜ？」の続きを研究しています。

Q3 今後の目標について教えてください

Q2でお話しした最初の「なぜ？」には、まだ完全な答えが出ていません。思っていた以上に難しい疑問を持ってしまったようです。今後の目標は、「疾患としての痛み」に苦しむ人がいない未来をつくることです。少し大きすぎる目標かもしれませんが、研究者である以上、それくらいを目指してもいいのではないかと思っています。注意や脳の働きをうまく利用して痛みを和らげるなど、これまでとは違ったアプローチから新しい治療法やリハビリテーションにつなげたいと考えています。理学療法士としての臨床経験と、神経科学の研究で得た知識の両方を生かし、研究成果を患者さんに還元することを自身の到達点としています。さらに、研究だけでなく、後輩や学生の教育にも力を入れていきたいと思っています。

Q4 後輩に向けてメッセージをお願いいたします

理学療法士として歩み始めた時に思い描いていた将来と、その後に進む道は必ずしも同じではありません。私自身も、一つの「なぜ？」を追いかけているうちに、気がつけば研究者になり、海外で研究する機会まで得ることができました。だからこそ、若い理学療法士の皆さんには、今見えている選択肢だけで自分の将来を決めてほしくないと思っています。臨床でも、研究でも、教育でも、「面白い」「やってみたい」と思うことがあれば、ぜひ一歩踏み出してみてください。自分の可能性を自分で決めつけず、少しくらい無謀でも、新しいことに挑戦してほしい。皆さんが、私たちの世代には思いつかなかったような新しい道を切り拓いてくれることを期待しています。

GOGO! 新人理学療法士

入職して2年目… 新人理学療法士の“今の声”を紹介します！



Q1 理学療法士を目指したきっかけは？

学生時代、部活動の試合での怪我により右膝の手術・理学療法を経験しました。
当時、担当してくださった理学療法士の方に心身両面で支えていただいたことでいつか自分も将来は同じ怪我や病気で悩んでいる方の支えになり、日常生活への復帰を手助けできる存在になりたいと思い理学療法士を目指しました。

Q2 学生時代に頑張って取り組んだことを教えてください

学生時代に頑張って取り組んだことは国家試験対策の勉強です。国家試験の合格を目指し、毎日夜まで残り勉強していました。勉強を繰り返してもなかなか模試の点数が伸びず、気持ちが折れてしまう時もありましたが、友人たちと励まし合いながらそれぞれの得意分野を教え合うなどインプットとアウトプットを繰り返し知識を深めました。

Q3 働く中で感じるやりがいと、苦労していることを教えてください

やりがいを感じることは肩関節疾患の患者様に「あなたのおかげで腕が上がるようになった」といっていただけた時です。入職当初は肩関節に対する知識もなく苦手意識を持っていましたが自身での勉強や外部の勉強会に参加し知識を増やしていく中で苦手意識も無くなりました。苦労していることは保存治療を選択された腱板断裂や末期の変形性関節症の方に対する介入です。

Q4 青春の思い出を教えてください

青春の思い出はラグビー部での活動です。中学から高校卒業までの6年間活動していました。高校一年生の時に膝の手術を受けたため思うようにはプレーできませんでしたが顧問の先生をはじめ友人たちの支えもあり練習や試合に打ち込むことができました。ラグビーを通して同じ学校外の友人ができるなど多くの方と関われたことも思い出の一つです。

Q5 今後の目標について教えてください

知識や技術をさらに深めるため、日々の自己学習を怠らず、患者様一人ひとりに適切な理学療法を提供し「あなたが担当でよかった」と言っていただけるような理学療法士になることが目標です。

My time

愛知県青い鳥医療療育センター

野々垣　聡（勤続年数 24年目）



Q 趣味について

ひとりの作家がきっかけで、私はアートにハマりました。アンドリュー・ワイエス。出逢いは、親に連れて行ってもらった彼の展覧会でした。「人の手で、ここまで繊細に絵が描けるの!?」と、こどもごころに衝撃を受けたことを覚えています。

海外旅行では、美術館に立ち寄るのも楽しみの一つです。日本にはなかなか持ってこられない大型作品にも出逢えます。ところが初めてのルーブルでは、一番観たかった『民衆を導く自由の女神』が、まさかの別館へ貸し出し中。パリまで行って推しに逢えず。結構ショックでした。

『真珠の耳飾りの少女』とは、14年前に神戸で初対面。実物は想像以上に艶やかで、目が離せませんでした。今回再会でき、改めてその魅力に引き込まれました。

先日のワイエス展では、今度は私が両親を連れて行く側に。子どもの頃を思い出し、感慨深いものがありました。

今気になっているのは、ガーナのスラム街をアートの力で撲滅しようと活動する長坂真護さん。ご縁があり、先日はアトリエツアーにも参加できました。

最近は、作品を購入することも増えてきました。アートのある暮らしは、日常を少し豊かにしてくれる気がします。

このコーナーでは、ご自身の活動や趣味を紹介したい人を募集しています。
また、お近くに輝いている人がいましたら推薦してください！詳しくは事務局までご連絡ください。

行事・研修案内

下記は本誌制作時点の情報となります。
最新の行事・研修情報や各研修の内容・申込方法等の詳細は
当会ホームページをご確認ください➡

第31回日本基礎理学療法学会学術大会共催講演　※申込受付終了

日　時　令和8年11月1日（日）13:00～14:30
開催方法　対面開催：第31回日本基礎理学療法学会学術大会第1会場
（名古屋学院大学名古屋キャンパスしろとり）

海部地区支部懇談会・症例検討会　※申込受付終了

日　時　令和8年11月4日（水）懇談会18:30～19:00　症例検討会19:10～20:30
開催方法　対面開催：海南病院（弥富市前ケ須町南本田396）

第1回若手～中堅向け診療報酬研修会　※申込受付終了

日　時　令和8年11月4日（水）19:00～20:30
開催方法　オンライン開催

第2回教育研修部主催研修会　※申込受付終了

日　時　令和8年11月8日（日）13:00～15:30
開催方法　オンライン開催

知多半島支部研修会　※申込受付終了

日　時　令和8年11月12日（木）19:00～20:45
開催方法　対面開催：日本福祉大学半田キャンパス（半田市東生見町26-2）

行事・研修案内

下記は本誌制作時点の情報となります。
最新の行事・研修情報や各研修の内容・申込方法等の詳細は
当会ホームページをご確認ください➡

ワールドカフェ

日　時　令和8年11月15日（日）10:00～12:00
開催方法　対面開催：名古屋市立大学病院救急災害医療センター（名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1）

第2回若手～中堅向け診療報酬研修会

日　時　令和8年11月25日（水）19:00～20:30
開催方法　オンライン開催

第3回あいち福祉用具ケア研修会

日　時　令和8年11月28日（土）10:00～16:00
開催方法　対面開催：Station Ai（名古屋市昭和区鶴舞1-2-32）

第31回小児領域の地域リハビリテーション公開講座①

日　時　令和8年11月29日（日）10:00～11:30
開催方法　オンライン開催

重症化予防・自立支援のための機能訓練の方法などを考える研修会

日　時　令和8年12月3日（木）10:00～16:00
開催方法　対面開催：ウインクあいち（名古屋市中村区名駅4-4-38）

西三河支部研修会・症例検討会

日　時　令和8年12月5日（土）研修会14:00～15:30 症例検討会15:40～17:30予定
開催方法　オンライン開催

第31回小児領域の地域リハビリテーション公開講座②

日　時　令和8年12月6日（日）10:00～12:00
開催方法　オンライン開催

第2回喀痰吸引技術研修会

日　時　令和8年12月6日（日）10:00～15:30
開催方法　対面開催：あいち福祉医療専門学校（名古屋市熱田区金山町1-7-13）

第31回小児領域の地域リハビリテーション公開講座③

日　時　令和9年1月24日（日）10:00～12:30
開催方法　対面開催：名古屋市立大学病院救急災害医療センター（名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1）

※以下研修会は本誌制作時点で詳細調整中です

・小児分野の理学療法士交流会（第2回：尾張地域）	※12月6日(日)予定
・介護予防指導者育成事業地区研修会（名古屋・東三河地区）	※12月13日(日)予定
・産業保健事業部主催講習会	※12月18日(金)予定
・リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算研修会	※12月26日(土) 予定
・訪問リハビリテーション実務者研修	※1月9日(土)・10日(日)予定
・知多半島支部症例検討会	※1月21日(木)予定
・第2回名古屋支部研修会・症例検討会	※1月23日(土)予定
・介護予防指導者育成事業地区研修会（尾張・知多・西三河地区）	※1月31日(日)予定
・尾張西部地区支部症例検討会	※1月31日(日)予定
・尾張西部・海部地区支部合同研修会	※2月21日(日)予定
・東三河支部冬季症例検討会	※2月27日(土)予定

第42回

東海北陸理学療法学術大会

理学療法の社会貢献
～「いきる」を支えるプロフェッショナル～

2026.11/21 SAT・22 SUN

会場 四日市市文化会館
三重県四日市市安島2丁目5-3

大　会　長：南出光章(しおりの里デイケアセンター)
準備委員長：小崎琢也(小山田記念温泉病院)
大会事務局：小山田記念温泉病院 三重県四日市市山田町5538-1

演題募集期間
2026年
5月1日(金)～6月19日(金)

Mail:thpt42.gakkai@outlook.jp
大会ホームページ
https://thpt42.gakujyutsuweb.net



主催：東海北陸ブロック理学療法士協議会　担当：一般社団法人 三重県理学療法士会



第35回

愛知県理学療法学術大会

超高齢社会を問う
－現場からはじまる新たな挑戦－

会期 2027年 5月16日(日)
会場 名古屋国際会議場

大会長 伊藤 直樹（国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター）

副大会長 村田 元徳（医療法人三九会 三九朗病院）
副大会長 壹岐 英正（医療法人瑞心会 渡辺病院）
準備委員長 谷本 正智（国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター）

演題登録期間 2026年9月7日(月)～11月6日(金)

特定非営利活動法人 愛知県理学療法学会
THE AICHI SOCIETY FOR PHYSICAL THERAPY
https://apta35.aichi-npopt.jp/

主　催　特定非営利活動法人 愛知県理学療法学会
共　催　公益社団法人 愛知県理療法士会
大会事務局　特定非営利活動法人愛知県理学療法学会 〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-18-1 三晃丸の内ビル601号室

INFORMATION

～愛知県理学療法士会会員の皆さまへ～

日本理学療法士協会マイページ登録内容の確認・更新のお願い

愛知県理学療法士会ではマイページ会員登録情報を照会させていただくことがあります。また、会員情報の更新がないまま県士会からの案内が届かない・前所属先に郵送物が届いてしまう等の問い合わせをいただくことがございます。
マイページ登録内容（所属先・ご自宅住所・メールアドレス等）が最新の情報か、今一度ご確認をお願いいたします。

※システム上、愛知県士会事務局での会員情報変更は出来ません。会員登録情報に変更が生じた場合はご自身で日本理学療法士協会のマイページから申請手続きを行なってください。

参考：公益社団法人日本理学療法士協会ホームページ
＞各種手続き＞勤務先・自宅住所・氏名等の変更

所属先（勤務先）

ご所属先が変更になった方は速やかに異動申請手続きを行ってください。

マイページ → 登録内容の変更・確認 → 本人情報の確認・更新 → 主たる所属先変更

※所属施設が移転した場合：変更後の郵便番号と施設住所を日本理学療法士協会へお知らせください。
※施設名・電話番号・FAX番号等は施設会員代表者の方にてマイページより変更可能です。

メールアドレス

会員向けの情報をメール通信にて配信しております。またオンライン研修会の参加方法案内等をメールでお送りする機会も増えておりますのでメールアドレスのご登録をお願いいたします。

※携帯電話のメールアドレスをご登録の方：ファイル受信が可能なアドレスに変更していいただくことを推奨しております。

施設代表者変更

施設代表者を変更する場合は、現施設代表者の方のマイページから手続きが必要です。

マイページ → 登録内容の変更・確認 → 施設情報管理

※施設宛の郵送物の宛名は施設代表者の方になりますので予めご了承ください。



会費納入方法

「クレジットカード決済」または「口座振替」

※マイページから随時変更可能です。
※2022年4月より楽天カード以外のクレジットカード（VISA、master card、JCB、AMERICAN EXPRESS、Diners Club）も利用可能になりました。

※郵送物について：希望郵送先(士会)の送付先を「自宅」で登録していただいている場合でも、「勤務先」へ施設代表者宛としてご案内等を郵送する場合もございます。ご希望に添えない形になりますが、何卒ご理解を賜りますようお願いいたします。

日本理学療法士協会メンバーアプリ（JPTA アプリ）インストールのお願い

2022年5月16日に会員マイページ専用アプリがリリースされました。「JPTAアプリ」では以下のことが可能となります。

・マイページへのオートログイン
・QRコード読取機能による研修会参加受付
・協会・士会からのお知らせをプッシュ通知で受信

各種異動のWeb申請等の会員管理や士会・学会主催研修会の参加受付は、会員マイページおよび会員専用アプリを利用しています。
App Store、Google Playよりインストールをお願いします。

App Store からダウンロード

Google Play で手に入れよう

会員動向

令和8年7月1日
〜
令和8年8月31日

総会員数	7,458名 (在会者5,897名・休会者1,561名)
会員所属施設数	1,068施設
県外異動	他県→愛知県　9名
	愛知県→他県　4名
新入会	80名
復会	10名
休会	21名
退会	41名

編集後記

今号では、熊本地震にJRATの一員として派遣された２名の先生方の活動記を掲載しました。被災地の過酷な状況下で専門職として何ができるのか、現地に赴き奮闘された先生方の姿には多くの気づきがあります。災害リハビリテーションの重要性と、いつ起こるか分からない災害への備えのあり方について、深く考えさせられました。

広報部　後藤　亮吉

公益社団法人 愛知県理学療法士会ニュース　令和8年（2026）11月1日発行
発行所／公益社団法人 愛知県理学療法士会 広報部
事務局／〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-18-1 三晃丸の内ビル601号室　TEL&FAX：052-972-6295
E-mail：office@aichi-pt.jp